

なるほどのじ



学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報

今月のトピック紹介版

9月号

子どもたちの学力向上を確実に図る校内授業研究の充実 ～研究主任の動きを活性化するマネジメント～

2学期は授業改善が実践として深まっていくことが求められます。そのためには、校内授業研究会や研修会等が管理職のマネジメントのもとに充実し、全職員が授業改善に向かって「チーム学校」として機能することが重要です。本号では、研究主任の困り感やつぶやきをもとに、ミドルリーダーである研究主任の動きをどう活性化し、戦略のもとに子どもたちの学力向上を実現していくのか、という点について提案していますのでご活用ください。

学力向上における課題解決につながる授業づくり ～「必要な情報を整理する力」「根拠をもとに説明する力」を育てる算数の授業～

全国学力・学習状況調査から、「必要な情報を基に整理して考え、表現すること」・「根拠を説明すること」、が本県の学力向上における包括的かつ継続的な課題であることが明らかになっています。

本号では、「問題場面を図に表す力」・「立式の根拠を説明する力」の育成に資する算数の授業場面を取り上げ、上記の課題解決に向かう実践を紹介していますので、各教科での授業づくりにもアレンジしてお役立てください。

特別支援教育ほっと通信 ～読み書きのつまずきを確実にとらえ、適切な支援で学力向上を保障する～

読み書きのつまずきは、学力不振としてひとくくりにとらえられがちな傾向にあり、適切な支援が行われなまま長期において見逃されてしまうことがあります。小学校低学年での読み書き指導において確実に子どもの特徴をとらえ、早期の支援を行うことによって、学力向上を保障することが可能になります。

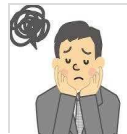
鳥取市と倉吉市の効果的な実践を紹介していますので、ご活用ください。

子どもたちの学力向上を確実に図る校内授業研究の充実 ～研究主任の動きを活性化するためのマネジメント～

授業研究の効果を上げるためには、研究主任が校内でリーダー性を存分に発揮できる環境づくりが必要です。「一人仕事」になりがちな研究主任が提案する戦略に対し、管理職からの支援や同僚性の構築が有効になってきます。多忙な日々が続く2学期ですが、研究主任の先生のアシストをお願いします。

研究主任が日頃感じている思いから…

- ❑全国的な学力調査のデータ分析を効果的・効率的に行う方法は？
- ❑授業者中心の校内授業研究の在り方を改善できないのだろうか？
- ❑全職員の主体性を引き出すための仕掛けはないのだろうか？



9月の全国学力・学習状況調査の分析は、核となる研究チームで！！
⇒管理職を含めた機動力のある、少数編成のチームで分析



「全国平均を5ポイント上回る」もしくは「5ポイント下回る」といった得点に着目するだけでなく、データから考察を深め、課題を焦点化することが大切です。そのためには、研究主任一人の考えではなく、研究チーム等を編成し、複数で協議を行うことが必要です。このことは、考察の深まりはもとより、次世代育成や教員の指導力向上にもつながります。

校内授業研究会で一人一人の教員が持ち味を発揮する場を設定！！
⇒全職員が主体的に取り組む仕掛けを管理職と研究主任が連携して実施

研究主任が授業研究会で終始前面に立って孤軍奮闘しているケースが多いのではないのでしょうか。どの先生にも出番を設定されることで、校内授業研究会の雰囲気が一変します。

A校では、授業研究会の冒頭に「道徳科のポイント」「アクティブ・ラーニング導入の背景」等、テーマを決め、先生方が、毎回、順番にプレゼンされています。一人一人の活躍の場があることで、研究に対する意識が変わりました。管理職から「〇〇先生、お願いします。」と後押しすることで取組が軌道にのったようです。



校内における研究主任の権限をアップ！！
⇒管理職からのアプローチにより、研究主任が動きやすい体制を構築



管理職が「研究を通して、〇〇な学校にしていこう」とビジョンを語りきることで、全職員の授業研究に対する受けとめ方が変わります。研究主任にすべて任せるのではなく、管理職が取組の目的を語り続けることで、研究主任の提案が確実に浸透するようになります。

目指す授業が実施されるためのマネジメントが問われています！

学力向上が進む学校では、教職員同士の「使命責任の共有」「同僚性」が重視され、教師集団の文化づくりが着実に進められています。一人の百歩ではなく、百人の一步を進めるために、そして、児童生徒の学力向上へとつなぐために、研究主任の取組を着実に浸透させる管理職のマネジメントが求められています。

本学期も西部教育局は、研究主任をサポートしたいと考えています。研究主任は、リーダー的な存在であり、研修会を通して、他校の先生方と協働的に課題解決を進めることで、取組の見通しをもつ手助けをしたいと考えています。第5回研究主任等情報交換会を西部総合事務所にて、9月26日（月）午後に行います。出張への配慮をお願いします。

学力向上における課題解決につながる授業づくり

～「必要な情報を整理する力」「根拠をもとに説明する力」を育てる算数の授業づくり～

日々の授業で子どもたちから「わかった。」「その考えすごい。」といった声は聞かれますか？これまでの全国学力・学習状況調査の結果から「問題場面を図に表すこと」「立式の根拠を説明すること」が課題としてあげられます。この課題を克服するためにどのような支援をしていけばよいか、4年生の算数の問題(何倍でしょう)を例に考えたいと思います。

<問題> テレビ塔の高さは、90mで、これは百貨店の高さの3倍です。
百貨店の高さは、学校の高さの2倍です。学校の高さは何mですか。

1 問題場面を把握する



どのような図をかけば問題が解けそうですか。

- ・関係図を使えば解けそう。
- ・高さを比べる図をかけば解けそう。



☆子どもたちが、問題場面を把握し、見通しを持って学習に取り組めるようにすることは、どの教科でも大切なポイントです。



2 問題場面を図に表し、数量関係を捉えて立式する

☆どの子どもも図に表すための手立て

・数量関係を関係図に表す際、子どもたちが図のどこにどの建物を入れたらよいか判断できるような手立てが大切です。



一番低い建物は何か？それは、なぜですか？

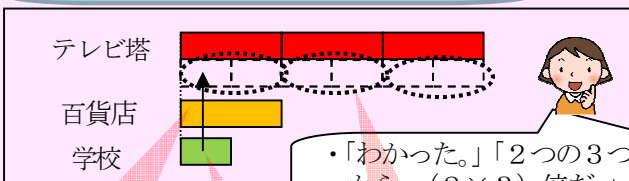
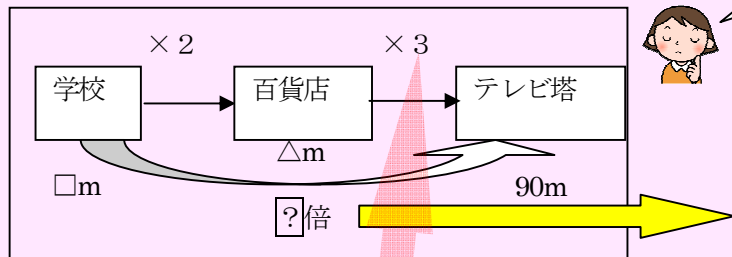


・学校です。なぜなら、百貨店の高さの3倍がテレビ塔、学校の高さの2倍が百貨店だからです。

・2倍の3倍ということは、5倍？



学校の何倍がテレビ塔になりますか？



「わかった。」「2つの3つ分だから、(2×3)倍だ。」

問題場面を図に整理し立式する

3 図を根拠に式の意味について話し合う

☆式の意味を図、言葉、式を使って説明する場を設定する。

<順に割っていく>

- △ (百貨店の高さ) を求めるには、 $90 \div 3 = 30$
- (学校) の高さを求めるには、 $30 \div 2 = 15$

<まとめて割る>

- (学校の高さ) の (2×3) 倍がテレビ塔の高さになるということは、 $90 \div 6 = 15$



2つの考えに共通点や相違点がありますか？



・どちらもわり算で答えを求めています。



・まとめて割る方法だと、わり算が1回で答えが求められるので簡単です。



図では、 $\times 3$ なのに、なぜ $\div 3$ になるのですか？

・関係図の $\times 3$ 、 $\Delta \times 3 = 90$ ということだから、 Δ を求めるには、 $90 \div 3$ でわり算になります。



$\times 6$ なのになぜ $\div 6$ 、6って何の数？

・関係図や図を見ると、 $\square \times 6 = 90$ だから、 $\square = 90 \div 6$ だと思います。この6は、図の中の (2×3) です。

$\times 2$ なのに・・・



同じように $\square \times 2 = 30$ だから、 \square を求めるには $30 \div 2$ になります。

4 適用問題を解く

似た問題を話し合った考えを使って解いてみるのが大切です。

☆このような発問をすることで、子どもたちは図と式を関連付けながら、自分の考えを表現します。他教科でも、子どもたちの考えの根拠を引き出し、学習を深める発問が大切です。



☆「なぜわり算になるかわかりました。」「自分が考えた方法より簡単にできます。」と、子どもたちが「わかった」と実感できるような手立てが大切です。問題場面を図に表したり、式の意味を図・言葉・式を使って説明したりすることで、「問題場面を図に表す力」や「立式の根拠を説明する力」が育っていきます。



平成28年度の第1回巡回相談では、困り感をいただいている子どもたち一人一人への支援の在り方やよりよい校内体制の在り方等について、先生方と共に考えてきました。その中で「**ひらがながすらすら読めません。**」「**特殊音節の表記をよく間違えます。**」といった気づきを多く聞きました。「**読み書きのつまずき**」は見逃されたり、「**学力不振**」としてひとくくりに捉えられる傾向があります。つまずきを的確に把握し、適切な支援を提供することが**学力向上を後押し**することにつながります。

そこで、今回は鳥取市と倉吉市における「**読み書きのつまずきへの早期発見・早期支援の取組**」を紹介します。

文字情報から言葉を知り語彙を増やすためには、**ひらがなを正しく素早く読む力や、言葉をまとまりで読む力が重要!**

学習をスムーズに進めるためには、**小学校低学年におけるひらがなの読み書きの力はとても大切!**



一音一音ではなく
すらすらと

音や形がよく似た文字 (※1) や、**特殊音節** (※2) の読み方でつまずく子どもたちが多いため、適切な指導・支援を行っていくことが大切!

(※1) 「む」や「ぬ」、「ね」や「わ」

(※2) 小さい「や・ゆ・よ」や「っ」

ひらがなを**流暢**に読む力を育てるために

T式ひらがな音読支援 (鳥取市)

多層指導モデルMIM (倉吉市)

ひらがなをどの程度、正確に、速く読むことができるのかを**評価**し、一定基準をクリアしなかった児童に**タブレット端末や文字カード等**を使い、文字の読み指導や語彙を増やす指導等を段階的に行います。

タブレット端末等を使った音読・語彙指導

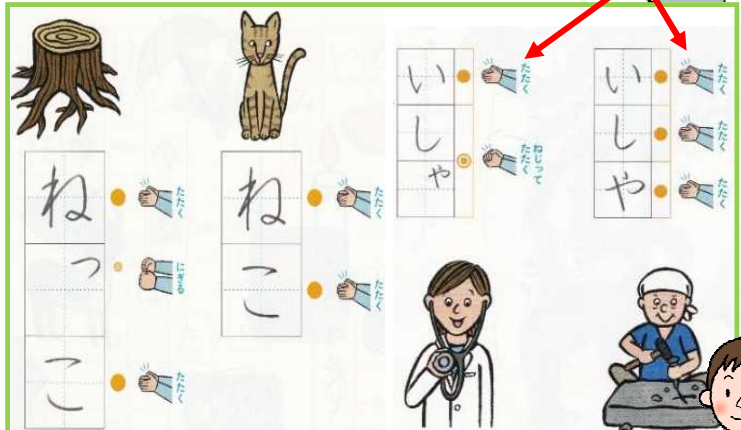


【音読指導アプリ 単音直音統合版】



【語彙カルタ】

一斉指導の中で、絵カードや音読集などを使いながらひらがなの音を**手拍子**して表す**動作化と視覚化**、そして**声に出す言語化**を通して、ひらがなを正しく読むコツを学習します。



動作化と視覚化の指導 (1年国語東京書籍)

〈成果〉

7.6%

読みが困難な児童

(小学校1年生1700人で**約130人**)

ひらがな音読支援

語彙指導

3%台に減らすことができた! (約50人)

(参考) 多層指導モデルMIMについては、国立特別支援教育総合研究所のサイト (<http://forum.nise.go.jp/mim/>) に掲載されています。また、**西部教育局にも実物がありますので、ぜひお問い合わせください。**

子どもたちのつまずきは一律ではありません。複数の支援者の見立てや客観的な検査(ひらがな読み検査等)にもとづいて子どもたちの実態を的確に把握し、個別に必要な指導をしたり、効果を確認めながら指導方法や内容を工夫したりするなど、常にPDCAサイクルを意識することが大切です。